

授業科目	看護実践の基礎Ⅰ	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	主体的に学ぶ学習方法として、本校が取り入れているポートフォリオを使ったプロジェクト学習について学び、意志ある学びを実現するためにその学習の手法を身につけ、今後の看護学の学習及び看護展開に活かせることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） プロジェクト学習・ポートフォリオ学習とは何かについて学習します。			講義
2	2回目以降は各自のフェーズに沿って進めていく	プロジェクト学習の手法、身に付く力について学習します。			講義・演習
3		ナイチンゲールプロジェクト学習について学び実施します。			
4		演習： ビジョンとゴール、計画立案、情報リサーチを実施していきます。 自己学習：計画立案に必要な準備と 情報リサーチ			
5		制作物の作成を行います			講義・演習
6		ナイチンゲールプロジェクト学習としてプレゼンテーションを行います。			講義・演習
7		再構築、成長エントリーとは何かについて学習し、実施します。 演習・自己学習：再構築、成長エントリーに必要な自己評価			講義・演習
8(45分)		試験			
テキスト	講師資料				
参考図書等	鈴木敏恵著 プロジェクト学習の基本と手法 （教育出版）				
評価方法	筆記試験、元ポートフォリオ、制作物、凝縮ポートフォリオ、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	看護実践の基礎Ⅱ	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	看護を理解するために主要概念を捉えると共に看護倫理や看護政策に関する基礎的知識を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 看護とは何かについて学習します。			講義・演習
2	看護とは	看護の変遷、看護の定義について学習します。			講義・演習・GW
3	看護の定義とは	看護の役割と機能について学習します。			講義・演習・GW
4	看護の役割とは	人間のこころと身体、人間の環境と「暮らし」、看護の対象について学習します。			講義・演習・GW
5	人間の環境と暮らしとは	健康のとらえ方、国民の健康状態について学習します。			講義・演習・GW
6	健康とは	国民のライフサイクルについて学習します。			講義・演習・GW
7	ライフサイクルとは	職業としての看護について学習します。			講義・演習
8	看護の始まりとは	看護職の資格・養成制度・就業状況について学習します。			講義・演習
9	看護職の資格とは	継続教育とキャリア開発、看護職の養成制度の課題について学習します。			講義・演習
10	看護職の養成制度とは	医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理について学習します。			講義・演習
11	倫理とは	看護実践における倫理問題への取り組み①について学習します。 （倫理問題の事例から学ぶ）			講義・演習・GW
12	医療倫理とは	看護実践における倫理問題への取り組み②について学習します。 （倫理問題の事例から学ぶ）			講義・演習・GW
13	看護倫理とは	看護提供のしくみについて学習します。			講義・演習
14	看護サービスとは	看護をめぐる制度と政策について学習します。			講義・演習・GW
15	看護政策とは	まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学1 （医学書院）				
参考文献	バージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの （日本看護協会出版会） フローレンス・ナイチンゲール：看護覚書 （現代社）				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	看護実践の基礎Ⅲ	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	各健康のレベルにある対象および治療を受ける対象の特徴を理解し、必要な看護援助について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） ライフサイクル、家族の機能からとらえた対象と家族の健康上のニーズについて学習します。			講義・演習
2	療養の場とは	生活と療養の場からとらえた対象と家族の健康上のニーズについて学習します。			講義・演習
3	健康状態とは	健康状態、健康の維持増進をめざす看護について学習します。			講義・演習
4	急性期とは	急性期の特徴、急性期の患者のニーズについて学習します。			講義・演習
5	事例患者の理解	急性期にある患者と家族の看護援助について学習します。 (事例1)			講義・演習
6	慢性期とは	慢性期の特徴、慢性期の患者のニーズについて学習します。 (事例2：糖尿病の患者)			講義・演習
7	事例患者の理解	慢性期にある患者と家族の看護援助について学習します。 (事例2)			講義・演習
8	リハビリテーションとは	リハビリテーション期の特徴、患者のニーズについて学習します。 (事例3：麻痺のある患者)			講義・演習
9	事例患者の理解	リハビリテーション期にある患者と家族の看護援助について学習します。(事例3)			講義・演習
10	終末期とは	終末期の特徴、患者のニーズについて学習します。 (事例4：がん患者)			講義・演習
11	事例患者の理解	終末期にある患者と家族の看護援助について学習します(事例4)			講義・演示
12	化学療法とは	化学療法を受ける対象者への看護について学習します			講義・演習
13	放射線療法とは	放射線療法を受ける対象者への看護について学習します			講義・演習
14	身体侵襲とは	身体侵襲を伴う検査・治療をうける対象者への看護について学習します			講義・演習
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 系統看護学講座	専門分野Ⅰ 専門分野Ⅰ	臨床看護総論 基礎看護技術Ⅰ	基礎看護学4 基礎看護学2	(医学書院) (医学書院)
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	基礎看護技術論Ⅰ	単位数	1	開講時期	1年 前期
学習目標	看護技術の特殊性と看護における観察の目的を理解し、健康レベルの看護アセスメントに必要な知識・技術・態度を身につけることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 看護技術とは、看護技術の特徴、範囲について学習します。			講義・演習
2	看護技術とは	看護技術を適切に実践するための要素と技術の発展について学習します			講義・実技
3	動画視聴：手洗い・手指消毒	看護技術の中の感染防止技術（スタンダードプリコーション）を実施します。			講義・実技
4	ヘルスアセスメントとは	ヘルスアセスメントについて学習します			講義・演習
5	バイタルサインとは	バイタルサインの観察とアセスメントについて学習します。			講義・演習
6	動画視聴：脈拍、呼吸、Spo2の観察	バイタルサインの測定①を学生間で実施します。			実技
7	動画視聴：血圧測定	バイタルサインの測定②を学生間で実施します。			実技
8	動画視聴：胸部、胸部、腹部の観察 フィジカルアセスメントとは	フィジカルアセスメントに必要な知識について学習します。 （視診・触診・打診・聴診）			講義・DVD
9		フィジカルアセスメントの実際について学習します。			講義・演習
10	心理・社会面のアセスメントとは	心理・社会面のアセスメントについて学習します。			実技
11	実技練習	ヘルスアセスメントの実際①をシミュレーションにて実施します。			実技
12	実技練習	ヘルスアセスメントの実際②をシミュレーションにて実施します。			実技
13	実技練習	ヘルスアセスメントの実際③を学生間で実施します。			講義・演習
14	評価とは	ヘルスアセスメント評価を学生間で実施し他者評価をうけます。			実技
15		筆記試験・実技試験（バイタルサインの測定）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 （医学書院） 横山 美樹：はじめてのフィジカルアセスメント （メジカルフレンド社）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。 実技試験（10点）				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	基礎看護技術論Ⅱ	単位数	1	開講時期	1 年 前期
学習目標	日常生活における活動と休息、生活環境、食事や排泄行動を支えるために必要な知識・技術・態度を学び各看護学に応用できる基礎的能力を身につけることを目標とします。				
回数 (1 回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 活動と休息の意義及び重要性、健康生活における活動・睡眠に必要な知識・技術について学習します。			講義・演習
2	動画視聴：体位変換、車いす移乗	長期臥床による筋力低下、褥瘡予防のための体位変換・車椅子、ストレッチャー移動時の看護及びボディメカニクスの活用について学習します。（事例 A：演示）			講義・演習
3	事例患者のイメージ化	長期臥床による筋力低下のある患者(事例 A)の体位変換について学習します。（学生間：実技）			実技
4	車いす移動方法とは	長期臥床による筋力低下のある患者(事例 A)の車椅子、ストレッチャー移動について学習します。（学生間：実技）			実技
5	生活環境調整とは	健康生活の維持・疾病の回復・予防のための生活環境の果たす役割、生活環境調整に必要な知識・技術について学習します。			講義・演習
6	動画視聴：シーツのたたみ方、リネン交換	臥床安静が必要な患者(事例 B)の病床整備、臥床患者のリネン交換について学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
7	事例患者のイメージ化	臥床安静が必要な患者(事例 B)の病床整備、臥床患者のリネン交換について学習します。（シミュレーション：実技）			実技
8		食生活の意義、食事の援助に必要な知識（胃チューブ、経管栄養含む）・技術について学習します。			講義・演習
9	動画視聴：嚥下のメカニズムとは	臥床安静が必要な患者への食事介助、経管栄養について学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
10					
11	食事介助とは	臥床安静が必要な患者への食事介助について学習します。（学生間：実技）			実技
12	排泄の援助とは	人間生活における排泄行動の意義、排泄の援助（浣腸、適便含む）に必要な知識・技術について学習します。			講義・演習
13	動画視聴：浣腸 動画視聴：おむつ交換	症状安静が必要な患者への床上排泄（浣腸）介助、おむつ交換について学習します。（シミュレーション：演示、実技）			実技
14	動画視聴：導尿 導尿の手技とは	症状安静が必要な患者への一次的導尿、留置カテーテルの管理について学習します。（シミュレーショ：演示） 症状安静が必要な患者への一次的導尿について学習します。（シミュレーショ：実技）			講義・演習 講義・演習 実技
15		筆記試験・実技試験（臥床患者のリネン交換）			実技
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 （医学書院） 紙屋 克子：ナースングバイオメカニズムに基づく自立のための生活援助技術 （ナースングサイエンスアカデミー） 任 和子：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 （医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには 10 回以上の出席が必要です。 実技試験（10 点）				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に 5 分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	基礎看護技術論Ⅲ	単位数	1	開講時期	1 年 前期
学習目標	日常生活を支える技術として健康生活を維持するために重要な身体の清潔援助の知識・技術・態度を身につけるとともに各看護学に応用できる能力を身につけることを目標とします。				
回数 (1 回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 健康生活における身体清潔・衣服の意義について理解し、清潔援助に必要な知識・技術（入浴、シャワー浴含む）を学習します。			講義・演習
2	動画視聴：全身清拭	身体の清潔援助の方法・実際（清拭、寝衣交換、洗髪、整容）について学習します。			講義・演習
3	寝衣交換とは	臥床安静が必要な患者の全身清拭、寝衣交換について学習します。 （シミュレーション：演示 実技）			演示・実技
4	実技練習	臥床安静が必要な患者の全身清拭、寝衣交換について学習します。 ① （学生間：実技）			実技
5	実技練習	臥床安静が必要な患者の全身清拭、寝衣交換について学習します。 ② （学生間：実技）			実技
6	動画視聴：洗髪	臥床安静が必要な患者の洗髪について学習します。 （シミュレーション：演示 実技）			演示・実技
7	実技練習	臥床安静が必要な患者の洗髪、整容について学習します。 （学生間：実技）			実技
8	動画視聴：手浴、足浴	身体の清潔援助の方法・実際（手浴、足浴、口腔ケア、陰部洗浄）について学習します。			実技
9	実技練習	臥床安静が必要な患者の手浴、足浴について学習します。（シミュレーション：演示 実技）			講義・演習
10	実技練習	臥床安静が必要な患者の手浴、足浴について学習します。 （学生間： 実技）			実技
11	動画視聴：口腔ケア	臥床安静が必要な患者の口腔ケアについて学習します。 （シミュレーション：演示 実技）			実技
12	実技練習	臥床安静が必要な患者の口腔ケアについて学習します。 （学生間：実技）			
13	動画視聴：陰部洗浄	臥床安静が必要で要介助の患者への陰部洗浄について学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
14	実技練習	筆記試験・実技試験（臥床安静患者への清拭・寝衣交換）			
15	実技練習	実技試験（臥床安静患者への洗髪）			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 （医学書院） 任 和子：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 （医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。 実技試験（10点）				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	基礎看護技術論Ⅳ	単位数	1	開講時期	1 年 前期
学習目標	科学的な看護実践の基礎となる看護過程の展開方法およびリフレクションの方法を身につけることを目標とします。				
回数 (1 回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 看護過程の構成要素について学習します。			講義・演習
2	看護過程とは 問題解決課程とは	看護過程の基盤となる問題解決過程、クリティカルシンキングについて事例をもとに学習します。			講義・演習
3	クリティカルシンキングとは	倫理的判断と価値判断について事例をもとに学習します。			講義・演習
4	倫理的判断とは	リフレクションについて事例をもとに学習します。			講義・演習
5	リフレクションとは	学生自身に起こった問題についてリフレクションを行います。			講義・演習
6	課題学習 情報収集とは	アセスメント①（情報収集と分析）について学習します。 （事例を用いる：事例1）			講義・演習
7	分析とは	アセスメント②（情報収集と分析）について学習します。 （事例1）			講義・演習
8	看護問題抽出	看護問題の明確化（事例1）について学習します。			講義・演習
9	看護計画立案	看護計画①（事例1）について学習します。			講義・演習
10	具体策立案	看護計画②（事例1）について学習します。			講義・演習
11	実施の流れとは 評価とは	実施（事例1）について学習します。			講義・演習 講義・演習
12	看護記録とは	評価（事例1）について学習します。			講義・演習
13	看護における学習 支援とは	看護記録とは、記載・管理における留意点について学習します。			講義
14		学習支援について学習します。			
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 1 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② （医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	基礎看護技術論Ⅴ	単位数	1	開講時期	1 年 後期
学習目標	感染防止および患者の症状緩和、検査、処置に関連した治療、検査、処置時の看護を行うために必要な知識・技術を身につけることを目標とします。				
回数 (1 回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	感染防止とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 感染防止に必要な知識と技術について学習します。			講義・演習
2	創傷管理とは	創傷管理が必要な患者への創傷処置、無菌操作、ガウンテクニック等について学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
3	無菌操作とは	創傷管理が必要な患者への創傷処置、無菌操作、ガウンテクニック等について学習します。（シミュレーション：実技）			実技
4	酸素療法とは	呼吸・循環を整える技術、吸入（酸素、ネブライザー）療法、排痰ケアについて学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
5	排痰ケアとは	呼吸困難のある患者への吸入、安全な呼吸法について学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
6	呼吸法とは	呼吸困難のある患者への吸入、安全な呼吸法について学習します。（シミュレーション：実技）			実技
7	体位ドレナージとは	呼吸困難のある患者への体位排痰法について学習します。（シミュレーション：演示、実技）			実技
8	口腔内吸引とは	呼吸困難のある患者への口、鼻腔内、気管内吸引について学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
9	気管内吸引とは	呼吸困難のある患者への口、鼻腔内、気管内吸引について学習します。（シミュレーション：実技）			実技
10	胸腔ドレナージ、とは	呼吸困難のある患者への体温管理、末梢循環促進ケア、胸腔ドレナージについて学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
11	血液検査とは	検査時の看護、検体検査・生体情報のモニタリングについて学習します。			講義・演習
12	静脈血採血とは	静脈血採血および針刺し事故等について学習します。（シミュレーション：演示）			講義・演習
13	血液による事故とは	静脈血採血および針刺し事故等について学習します。（シミュレーション：実技）			実技
14	血糖測定法とは	血糖測定について学習します。（学生間：実技）			実技
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ (医学書院)				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10 回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために授業の開始前に 5 分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	基礎看護技術論Ⅵ	単位数	1	開講時期	2年前期
学習目標	与薬および救急法について理解し、看護に必要な知識と技術を習得することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください。	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 医療機器の原理と実際（心電図モニター、血圧計、パルスオキシメーター、除細動器）について学習します。			講義・演習
2	心電図モニター、人工呼吸器とは	医療機器の原理と実際（人工呼吸器、輸液ポンプ）使用時の看護について学習します。			講義・演習
3	与薬とは	与薬（経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬） 誤薬防止について学習します。			講義・演習
4	注射とは	注射について学習します。			講義・実技
5	皮下注射、皮内注射、筋肉注射とは	皮下注射、皮内注射、筋肉注射について学習します。 （シミュレーション：演示）			講義・実技
6	注射方法について	皮下注射、皮内注射、筋肉注射について学習します。 （シミュレーション：実技）			講義・実技
7	点滴静脈内注射法	点滴静脈内注射について学習します。（シミュレーション：演示）			講義・実技
8	とは	点滴静脈内注射について学習します。（シミュレーション：実技）			
9	輸血とは	輸血管理について学習します。			講義・演習
10	輸液の管理とは	輸液ポンプ、シリンジポンプ使用患者のルート確保および 管理について学習します。 （シミュレーション活用し学生間で実技）			講義・演習
11	中心静脈カテーテルとは	中心静脈カテーテル留置の介助について学習します。 （シミュレーション：演示）			講義・演習
12	一次救命処置、二次救命処置とは	救急、急変時における初期対応（急変時の応援要請含む）一次救命救急処置、自動対外式除細動器（AED）、止血法について学習 します。			講義・実技
13	心肺蘇生法とは	救命救急処置（CPR.AED）について学習します （シミュレーション：演示）			実技
14		救命救急処置（CPR.AED）について学習します （シミュレーション：実技）			実技
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学Ⅲ（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護学総論 基礎看護学Ⅳ（医学書院）				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	共有活動Ⅰ	単位数	1	開講時期	1年 通年
学習目標	基礎看護学を学習する過程で必要な学習方法等についてピアサポート制（学年の縦割りグループ）で共同学習を行い、コミュニケーション力、教育力、他学年との連携、協働その他、役割、責任感を養うと共に、異学年の学生同士で考えを語り合い学びあい支えあうことにより、お互いに尊重・成長できることを目標とします。 1年次は「他学年と共に学ぶ力」を養うことを目標とします。				
回数・時期 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1（4月）	ガイダンスに従い必要な学習を進めておいてください 人間関係構築に必要な能力とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 1．看護学生としての規律・自己教育力について学習します。 （年間活動の理解、他学年との連携方法、役割と責任の共通理解） 2．ピアサポートの活動について理解するとともに人間関係を構築する方法について互いの経験を基に共に学びます。			講義 GW
2（4月）	キャリア発達とは	専門職業人とは何か考え、入学時点でのキャリア発達について自分の考えを他者に伝え共に学びます。			GW
3（7月）	事例に応じた日常生活の援助技術とは	「対象の個別性に応じた看護技術」について事例を基に原理原則、安全に配慮した看護技術について実習体験を通して共に学びます。（日常生活の援助技術）			GW
4（9月）	事例に応じた診療の補助技術とは	「対象の個別性に応じた看護技術」について事例を基に原理原則、安全に配慮した看護技術について実習体験を通して共に学びます。（診療の補助技術）			GW
5（9月）	個別性に応じたコミュニケーションとは	「対象の個別性に応じたコミュニケーション」について実習体験を基に共に学びます。（事例検討）			GW
6（12月）	看護倫理とは	事例を基に看護学生、看護師としての倫理的判断を行うために必要なことについて共に学びます。			GW
7（12月）	倫理的行動とは	事例を基に看護学生、看護師としての倫理的行動のあり方について共に学びます。			GW
8（1月）		1年間の共有活動のグループ評価、自己評価を行いグループの成長確認および自己の課題を明確にすると共に、チームの一員としての役割について考えます。			自己評価 レポート
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 （医学書院） 資料				
参考図書等					
評価方法	学習ポートフォリオ、授業への取り組み、レポート、出席状況等を含めて総合的に評価します。 総合的評価はピアサポート担当教員が行います。 評価を受けるためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①ピアサポートグループでの学習により個々で看護の基盤を構築できるよう努力しましょう。 ②ピアサポートグループ内で各自の役割が果たせるように行動しましょう。 ③先輩から学ぶ姿勢、協働意識をもちメンバーを尊重した態度で積極的に活動に参加しましょう。				

授業科目	共有活動Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年 通年
学習目標	基礎看護学を学習する過程で必要な学習方法等についてピアサポート制（学年の縦割りグループ）で共同学習を行い、コミュニケーション力、教育力、他学年との連携、協働その他、役割、責任感を養うと共に、異学年の学生同士で考えを語り合い学びあい支えあうことにより、お互いに尊重・成長できることを目標とします。 2年次は「他学年と共に学ぶ力」「後輩を支援する力」を養うことを目標とします。				
回数・時期 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1（4月）	ガイダンスに従い 必要な学習を進め ておいてください 良好な人間関係に 必要な能力とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 1. 看護学生としての規律・自己教育力について学習します。 （年間活動の理解、他学年との連携方法、役割と責任の共通理解） 2. ピアサポートの活動について理解するとともに人間関係を構築する方法について互いの経験を基に共に学びます。			講義 GW
2（4月）	キャリア発達とは	専門職業人を目指す2年生としての自分のキャリア発達の考えを他者に伝え共に学びます。			GW
3（7月）	事例に応じた日常生活の援助技術とは	「対象の個別性に応じた看護技術」について事例を基に対象の個別性に応じた看護技術について実習体験を通して共に学びます。 （日常生活の援助技術）			GW
4（9月）	事例に応じた診療の補助技術とは	「対象の個別性に応じた看護技術」について事例を基に原理原則、安全に配慮し、対象の個別性に応じた診療の補助技術について実習体験を通して共に学びます。（診療の補助技術）			GW
5（9月）	個別性に応じたコミュニケーションとは	「対象の個別性に応じたコミュニケーション」について実習体験を基に全学年で共に学びます。（事例検討）			GW
6（12月）	看護倫理とは	事例を基に臨床現場における倫理的判断について看護学生、看護師として必要なことについて共に学びます。			GW
7（12月）	倫理的行動とは	事例を基に看護学生、看護師としての倫理的行動の実際について共に学び自身の考えを深められるよう学習します。			GW
8（1月）		1年間の共有活動のグループ評価、自己評価を行いグループの成長確認および自己の課題を明確にすると共に、ピアサポート活動を通して看護における患者指導・教育について考えを深めます。			自己評価 レポート
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 （医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 （医学書院） 資料				
参考図書等					
評価方法	学習ポートフォリオ、授業への取り組み、レポート、出席状況等を含めて総合的に評価します。 総合的評価はピアサポート担当教員が行います。 評価を受けるためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①ピアサポートグループでの学習により個々で看護の基盤を構築できるよう努力しましょう。 ②ピアサポートグループ内で各自の役割が果たせるよう行動しましょう。 ③先輩から学び、後輩への助言、ロールモデルを示す、といった協働意識をもち、メンバーを尊重した態度で積極的に活動に参加しましょう。				

授業科目	共育活動Ⅲ	単位数	1	開講時期	3 年 通年
学習目目標	基礎看護学を学習する過程で必要な学習方法等についてピアサポート制（学年の縦割りグループ）で共同学習を行い、コミュニケーション力、教育力、他学年との連携、協働その他、役割、責任感を養うと共に、異学年の学生同士で考えを語り合い学びあい支えあうことにより、お互いに尊重・成長できることを目標とします。 3年次は最高学年としての自覚をもち「リーダーシップを発揮した活動ができる力」を養うことを目標とします。				
回数・時期 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1（4月）	ガイダンスに従い 必要な学習を進め ておいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 1．看護学生としての規律・自己教育力について学習します。 （年間活動の理解、他学年との連携方法、役割と責任の共通理解） 2．ピアサポートの活動について理解するとともに人間関係を構築 する方法について互いの経験を基に共に学びます。			講義 GW
2（4月）	良好な人間関係に 必要な能力とは キャリア発達とは	専門職業人を目指す3年生としてのキャリア発達について自分の 考えを他者に伝え共に学びます。			GW
3（7月）	事例に応じた日常 生活の援助技術と は	「対象の個別性に応じた看護技術」について事例を基に個別性に応 じた効果的な看護技術について実習体験を通して共に学びます。 （日常生活の援助技術）			GW
4（9月）	事例に応じた診療 の補助技術とは	「対象の個別性に応じた看護技術」について事例を基に、対象の個 別性に応じた効果的な診療の補助技術について実習体験を通して 共に学びます。（診療の補助技術）			GW
5（9月）	個別性に応じたコ ミュニケーション とは	「対象の個別性に応じたコミュニケーション」について実習体験を 基に全学年で共に学びます。（事例検討）			GW
6（12月）	看護倫理とは	事例を基に臨床現場における倫理的判断について看護師・組織の一 員として必要なことを共に学び自己の課題について考えます。			GW
7（12月）	倫理的行動とは	事例を基に看護師としての倫理的行動の実際について共に学び臨 床現場における課題について考え学習します。			GW
8（1月）		1年間の共育活動のグループ評価、自己評価を行いグループの成長 確認および自己の課題を明確にすると共に、卒業後の臨床における 看護のピアサポートについて考えます。			自己評価 レポート
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学2 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 (医学書院) 資料				
参考図書等					
評価方法	学習ポートフォリオ、授業への取り組み、レポート、出席状況等を含めて総合的に評価します。 総合的評価はピアサポート担当教員が行います。 評価を受けるためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①ピアサポートグループでの学習により個々で看護の基盤を構築できるよう努力しましょう。 ②ピアサポートグループ内で各自の役割が果たせるように行動しましょう。 ③最高学年として後輩への助言、ロールモデルを示しましょう。 ④1．2年生に対して共に学ぶという協働意識をもち、メンバーを尊重した態度で積極的に活動に参加 しましょう。				

授業科目	看護研究Ⅰ	単位数	1	開講時期	2 年 後期
学習目標	看護学の専門性や独自性を追求するために看護実践活動における看護研究の必要性和研究方法、研究的態度を養うことを目的に、看護実践における研究の意義・目的、一般的な進め方が理解できることを目標とします。				
回数 (1 回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 看護研究とは 2 回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義・演習
2		看護における研究の意義と看護研究の必要性について学習します。			
3		看護研究のプロセスについて学習します（その 1）			
4		看護研究のプロセスについて学習します（その 2）			
5		看護研究のプロセスについて学習します（その 3）			
6		看護研究における倫理的配慮について学習します。			
7		ケーススタディの意義や方法について学習します			
8 (45 分間)		看護研究のための文献検索について学び演習を行います。 試験			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究 （医学書院）				
参考図書等	高橋百合子 監修 看護学生のためのケース・スタディ （メジカルフレンド社）				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには 5 回以上に出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に 5 分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	看護研究Ⅱ	単位数	1	開講時期	3年 通年
学習目標	看護実践におけるケーススタディの意義・目的、一般的な進め方について理解し、自己の看護実践を振り返りケーススタディをまとめプレゼンテーションができることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく シラバスに沿って実施できるよう準備をして臨む	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）			講義・演習
		文献検索の方法について学び、自己の看護実践の振り返りに必要な文献検索を行います			
2		研究計画の立案を行います			講義・演習
3		グループでゼミナール			演習
4		ケーススタディのまとめを行います。			演習
5		グループでゼミナール			演習
6		ケーススタディのまとめを行います。			演習
7		ケーススタディのまとめ			演習
8		抄録まとめ			演習
9		プレゼンテーション資料作り			演習
10		発表原稿作り			演習
11		グループゼミ			演習
12		プレゼンテーション及び自己・他者評価を行います。			演習
13		プレゼンテーション及び自己・他者評価を行います。			演習
14		プレゼンテーション及び自己・他者評価を行います。			演習
15	プレゼンテーション及び自己・他者評価を行います。			演習	
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究（医学書院）				
参考図書等	高橋百合子 監修 看護学生のためのケース・スタディ（メジカルフレンド社）				
評価方法	ケーススタディの内容・演習への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 評価を受けるためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①ケーススタディは、計画的に担当教員と相談の上進めていきましょう ②ケースをまとめるにあたり適切な文献を検索し、講読しましょう。 ③ケースをまとめられるように主体的に取り組ましましょう				

授業科目	地域・在宅 看護実践の基礎 1	単位数	1	開講時期	1年 前 期
学習目標	看護の対象である人々が暮らす地域・生活の特徴、暮らしを支える仕組みについて理解し、今後、地域や療養者を含めた地域で生活する人々とその家族、地域における様々な場での看護の基礎となる内容を学ぶために、学校周辺の地域の特性や生活する人々についての理解を深めることを目標とします。				
回数 (1回 90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 地域、療養者の療養の場、地域包括ケアシステムについて学習します。			講義・DVD
2	2回以降は次回学習内容に該当する部分の関連事項を調べて授業に臨んでください	地域で人々が安心して暮らせるための施策について学習します。 ＊神戸市地域推進医療課担当者による神戸市の実際 我が国および神戸市における地域の特徴・神戸市内における取組			講義・DVD
3	学校周辺の地域で暮らす人々の特徴	学校周辺の地域で生活する人々とその家族について学習します。			講義・演習
4	地域の人々が利用する施設や事業所とは	学校周辺の生活圏域について調査（徒歩 30分圏内）します。 ・地域で実施されている制度、地域にある施設や事業所を調べる ＊地域の清掃活動을しながら調査を実施			グループワーク
5	地域包括センターとは	学校周辺の地域の特徴について学習します。 1) 学校周辺における地域包括センターの役割 2) 地域包括センターからみた学校周辺地域の特徴 3) 地域包括センターからみた学校周辺地域の人々の健康課題			講義・演習 グループワーク
6		学校周辺地域の特徴についてのまとめ・プレゼンテーション			プレゼンテーション
7		＊あじさい祭にて地域の方々へ上記の内容をプレゼンテーション			
8 (45分)					
テキスト	系統看護学講座 在宅看護論（医学書院）				
参考図書等	地域看護学 神戸市ホームページ 神戸市介護保険事業計画 神戸市高齢者保健福祉計画 等（神戸市保健福祉局発行）				
評価方法	課題レポート、授業への取り組み、出席状況、プレゼンテーション内容を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 総合的評価を受けるには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	地域・在宅 看護実践の基礎 II	単位数	1	開講時期	2年 前 期
学習目標	地域で療養生活を送る人々と家族を理解し、その人らしい生活を支援するための地域連携、社会的資源の活用を学ぶことを目的に在宅看護の目的・対象・場を知り、保健・医療・福祉との関連、地域連携をふまえた看護の機能と役割を理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 在宅看護の目的と特徴について学習します。			講義
2	2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	高齢化社会の進展と地域連携・医療ニーズに応じた継続的な医療の提供と看護師の役割について学習します。			講義・DVD
3	看護師倫理要綱	在宅看護における看護師の倫理について学習します。			講義・GW
4	在宅看護の対象の特徴	在宅看護の対象者の、年齢、疾患・障害からみた特徴について学習します。			講義
5	訪問看護とは	在宅看護の対象を訪問看護制度からみた特徴について学習します。			講義
6	家族アセスメントとは	在宅看護の対象者としての家族の理解・家族アセスメント、家族への支援 について学習します。			講義・GW
7	権利保障とは	在宅看護における権利保障としての個人の尊厳・自己決定権等の内容について学習します。①			講義・GW
8	成年後見とは	在宅看護における権利保障としての情報の取扱い、成年後見等の内容について学習します。②			講義
9	在宅看護の場について	在宅看護の支援としてその提供方法・退院調整・退院支援について学習します。			講義
10	在宅看護関連の制度	在宅看護に関わる制度として、介護保険制度、訪問看護制度等について学習します。①			講義・DVD
11		在宅看護に関わる制度として、介護保険制度、訪問看護制度等について学習します。②			講義
12	社会資源とは	ケアマネジメントと社会資源の活用について学習します。			講義/DVD
13	多職種連携とは	地域における多職種連携、ネットワーク作りについて学習します。			講義
14		地域で生活する人々健康維持のための支援について考え学習します。（あじさい祭りに参加し健康チェックを実施する）			健康診査
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 （医学書院）				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的な評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	地域・在宅 健康支援論 I	単位数	1	開講時期	2年 前 期
学習目標	在宅療養対象者の状況を理解し、その対象の特徴及び対象とその家族に必要な看護についての知識の習得、および在宅看護における安全性の確保について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2 回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください エンドオブライフケアとは 在宅での医療行為とは 試験	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 在宅における小児の療養者の看護について学習します。			講義
2		在宅における終末期ケアを必要とする対象の理解について学習します。			講義・DVD
3		在宅における終末期ケアの展開について学習します。			講義・GW
4		在宅におけるエンドオブライフケアの特徴と看護、疼痛緩和について学習します。			講義・DVD
5		地域・在宅における感染防止について学習します。			講義
6		地域・在宅における医療事故防止について学習します。			講義・DVD
7		地域・在宅における災害時の在宅看護について学習します。			講義・DVD
8 (45分)					
テキスト	系統看護学講座 在宅看護論 （医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5 回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に 5 分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	地域・在宅 健康支援論Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年 後 期
学習目標	在宅療養を必要とする特定の健康問題をもつ対象の状況を把握し、その対象に必要な看護について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください。	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 在宅療養を必要とする対象の看護について、看護介入時期の特徴について学習します。			講義
2	身体障害者福祉法	脳血管障害(脳卒中)の後遺症をもつ療養者の特徴について学習します。			講義・DVD
3		脳血管障害(脳卒中)の後遺症をもつ療養者とその家族への看護について学習します。			講義・DVD
4	パーキンソン病	パーキンソン病の療養者の特徴について学習します。			講義・DVD
5		パーキンソン病の療養者の看護について学習します。			講義・DVD
6	認知症	認知症のある療養者の看護について学習します。			講義・DVD
7	難病に関わる法律や制度	難病をもつ療養者の特徴と看護について学習します。(ALS)			講義・DVD
8		褥瘡のケア、尿道留置カテーテル、ストーマ処置及び介護者への指導について学習します。			講義・DVD
9	呼吸不全	呼吸障害（慢性呼吸不全）をもつ療養者の看護について学習します。			講義・DVD
10		在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法と排たん法及び介護者への指導について学習します。			講義・DVD
11	統合失調症 精神保健福祉法	精神に障害のある療養者の特徴について学習します。			講義
12		精神に障害のある療養者の看護について学習します。			講義・DVD
13	成年後見制度	小児の療養者の特徴と看護について学習します。			講義
14		独居の療養者の在宅看護について学習します。			講義・DVD
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	地域・在宅看護 技術論Ⅰ	単位数	1	開講時期	2年 後 期
学習目標	在宅療養者と家族の在宅療養を支援していくために必要な在宅看護の展開方法を理解し、在宅療養者とその家族に必要な看護を展開する方法を習得することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください COPD とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）8 在宅看護展開のポイント、展開の方法について学習します。			講義
2		在宅看護展開の情報収集について学習します			講義 GW
3		在宅看護展開における情報のアセスメントの視点について学習します。			講義・DVD
4		在宅看護展開の目標設定と看護計画および実施・評価について学習します。			講義
5		事例による在宅看護の展開を考える学習を行います。 （事例） COPD で在宅酸素療法が開始となった療養者の看護			GW
6		在宅での療養生活を継続させるための条件・整備について学習します。			講義
7		福祉機器と介護用品について学習します。 ☆施設見学 「福祉機器」展示ホールにて見学			施設見学
8 (45分)		試験			
テキスト	系統看護学講座 在宅看護論 （医学書院）				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	地域・在宅看護 技術論Ⅱ	単位数	1	開講時期	2 年 後 期
学習目標	在宅での生活に必要な看護を理解するとともに、在宅での援助技術を学ぶことを目的として、在宅看護の実践に必要な看護技術、態度および介護者への指導技術を身に付けることを目標とします。				
回数 (1 回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 2 回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分をよく読んで授業に臨んでください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 在宅における衣生活、清潔の援助技術について学習します			講義
2		在宅療養者の入浴介助、洗髪をモデル人形で実施します。			実技
3		在宅における食生活・嚥下の援助技術について学習します			講義・DVD
4		在宅における食事介助、経管栄養と P E G、及び介護者への指導（無菌操作含む）について学習します			講義・DVD 実技
5		在宅における排泄の援助技術、移動と活動の援助技術について学習し実施します。			講義・DVD
6		在宅輸液療法（輸液宅配・皮下うめこみ）及び介護者への指導についてモデル人形で学習します			講義・DVD 実技
7		非侵襲的陽圧換気療法及び介護者への指導について学習します			講義・実技
8 (45 分間)		試験			
テキスト	系統看護学講座 在宅看護論 （医学書院）				
参考図書等	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ （医学書院） 看護技術 プラクティス （学研）				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには 5 回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に 5 分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	成人看護実践の基礎	単位数	1	開講時期	1 年 前期
学習目標	成人期にある対象の生物学的、心理学的、社会的特徴を統合的に捉えその対象の健に影響する要因を理解し、健康を維持・増進し、疾病を予防するための看護について理解することを目標とします。				
回数 (1 回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）ガイダンス 青年期・壮年期・向老期の身体的特徴について学習します			講義
2	成人の特徴とは	青年期・壮年期・向老期の心理・社会的特徴について学習します			講義・演習
3	家族の形態とは	家族の形態と機能について学習します			講義・演習
4	成人の生活様式とは	成人の生活様式について学習します			講義・演習
5	職業病とは	職業に関連する健康障害について学習します			講義・演習
6	成人を取り巻く環境とは	成人を取り巻く社会状況の変化について学習します。			講義・演習
7	生活習慣病とは	生活習慣に関連する健康課題①について学習します。			講義・演習
8	生活習慣の課題とは	生活習慣に関連する健康課題②について学習します。			講義・演習
9	健康課題の推移	生活習慣に関連する健康課題③について学習します。			講義・演習
10	生活習慣の修正とは	生活習慣の修正について学習します。			講義・演習
11	就労環境とは	就労条件・環境と疾病との関係について学習します。			講義・演習
12	職業性疾患とは	職業性疾患の要因と健康診断の受診行動について学習します。			講義・演習
13	産業保健とは	産業保健について学習します。			講義・演習
14	ストレス対処とは	ストレスに関連疾患の要因とストレス対処方法について学習します			講義・演習
15		まとめ・試験			講義
テキスト等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学1 (医学書院)				
参考文献等	国民衛生の動向 財団法人 厚生統計協会				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには 10 回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に 5 分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	成人健康支援論Ⅰ	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	成人期にあるクリティカルケアが必要な対象および周手術期において生命危機状態が回復に向かうよう援助するための看護および危機状態にある対象の家族への看護について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	クリティカルケアとは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）			講義・演習
2	急性期とは	急性期にある患者の特徴について学習します。 急性期にある患者の家族の特徴について学習します。			講義・演習
3	危機状況とは	急性期における看護の基本①（危機的状況への支援）について学習します。（事例：呼吸機能障害）			講義・演習
4	急性呼吸不全とは	急性期における看護の基本②（優先度、意思決定への支援）について学習します。（事例：呼吸機能障害）			講義・演習
5	緊急度、重症度とは	緊急度と重症度のアセスメント①について学習します。（事例：呼吸機能障害）			講義・演習
6	急性循環不全とは	緊急度と重症度のアセスメント②について学習します。（事例：循環機能障害）			講義・演習
7	救命処置とは	救急看護・クリティカルケアの基本①（心肺停止状態への処置）について学習します。（事例：呼吸、循環障害）			講義・演習
8	ショックとは	救急看護・クリティカルケアの基本②（ショックへの処置）について学習します。（事例：呼吸、循環障害）			講義・演習
9	外傷、熱傷、中毒とは	救急看護・クリティカルケアの基本③（外傷、熱傷、中毒の処置）について学習します。（事例：循環障害）			講義・演習
10	環境要因とは	救急看護・クリティカルケアの基本④（環境要因、感染症への処置）について学習します。（事例：栄養・代謝機能障害）			講義・演習
11	集中治療とは	救命処置と集中治療における看護について学習します。			講義・演習
12	手術を受ける患者の生体反応とは	手術を受ける患者の手術前看護について学習します。（事例：胃がん）			講義・演習
13	手術中の看護とは	手術を受ける患者の手術中の看護について学習します。（事例：胃がん）			講義・演習
14	術後合併症とは	手術後の看護、術後合併症の看護について学習します。（事例：胃がん）			講義・演習
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（医学書院） 系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学（医学書院）				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	成人健康支援論Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	成人期にある対象の慢性的疾患がある患者と家族の特徴を理解し、患者、家族への看護について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	慢性的疾患とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 慢性的疾患の特徴について学習します。			講義・演習
2	セルフケアとは	慢性疾患の治療と看護の基本について学習します。			講義・演習
3	慢性閉塞性肺疾患とは	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者のセルフケア能力と行動のアセスメント、セルフケアに影響する要因について学習します。（事例）			講義・演習
4	慢性閉塞性肺疾患患者の治療、検査とは	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者のセルフケア工夫への支援、生活と自己管理の調整について学習します。（事例）			講義・演習
5	慢性閉塞性肺疾患患者の家族支援とは	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者と家族の課題と支援について学習します。（事例）			講義・演習
6	慢性閉塞性肺疾患患者の社会的支援とは	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の多職種連携、社会的支援について学習します。（事例）			講義・演習
7	慢性心不全とは	慢性心不全患者のセルフケア能力と行動のアセスメント、セルフケアに影響する要因について学習します。（事例）			講義・演習
8	慢性心不全患者の治療、検査とは	慢性心不全患者のセルフケア工夫への支援、生活と自己管理の調整について学習します。（事例）			講義・演習
9	慢性心不全患者の家族支援とは	慢性心不全患者と家族の課題と支援について学習します。（事例）			講義・演習
10	慢性心不全患者の社会的支援とは	慢性心不全患者の多職種連携、社会的支援について学習します。（事例）			講義・演習
11	糖尿病患者の治療、検査とは	糖尿病患者のセルフケア能力と行動のアセスメント、セルフケアに影響する要因について学習します。（事例）			講義・演習
12	糖尿病患者の家族支援とは	糖尿病患者のセルフケア工夫への支援、生活と自己管理の調整について学習します。（事例）			講義・演習
13	糖尿病患者の家族支援とは	糖尿病患者と家族の課題と支援について学習します。（事例）			講義・演習
14	糖尿病患者の社会的支援とは	糖尿病患者の多職種連携、社会的支援について学習します。（事例）			講義・演習
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝 電子版 医学書院				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	成人健康支援論Ⅲ	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	回復期にある対象の障害の原因・状況を理解し、日常生活の維持・拡大に向けた看護及び家族の反応と適応過程をたどる看護について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	運動機能障害とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 回復期にある患者の特徴と治療について学習します。			講義・演習
2	身体機能の評価とは	回復期看護に必要な主な知識と技術について学習します。 (事例：大腿骨頸部骨折)			講義・演習
3	運動機能における循環障害とは	おもな症状に対する看護について学習します。 (事例：大腿骨頸部骨折)			講義・演習
4	検査時の看護とは	検査、診断を受ける患者の看護について学習します。 (事例：大腿骨頸部骨折)			講義・演習
5	牽引療法とは	固定法、牽引療法を受ける患者の看護について学習します。 (事例：大腿骨頸部骨折)			講義・演習
6	機能訓練とは	機能訓練の適応と原則について学習します。 (事例：大腿骨頸部骨折)			講義・演習
7	脊髄損傷とは	運動機能障害における手術を受けた患者の看護について学習します。 (事例：脊髄損傷)			講義・演習
8	疼痛緩和援助とは	運動機能の障害と疼痛への緩和について学習します。 (事例：脊髄損傷)			講義・演習
9	ADL 訓練とは	健康レベルに対応した ADL の訓練と看護について学習します。 (事例：脊髄損傷)			講義・演習
10	障害受容の過程とは	障害の受容過程と看護について学習します。(事例：脊髄損傷)			講義・演習
11	腎不全とは	排泄機能障害がある患者の特徴について学習します。 (事例：腎不全)			講義・演習
12	腎臓の検査とは	検査、診断を受ける患者の看護について学習します。 (事例：腎不全)			講義・演習
13	透析治療とは	透析治療を受ける患者の看護について学習します。(事例：腎不全)			講義・演習
14	大腸がんとは	人工肛門造設術を受けた患者の看護（ストーマ管理含む）について学習します。 (事例：大腸がん)			講義・演習
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護学 10 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎、泌尿器 成人看護学 8 (医学書院)				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには 10 回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に 5 分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	成人健康支援論Ⅳ	単位数	1	開講時期	2年 後期
学習目標	がん患者、終末期にある患者および緩和ケアを必要とする患者と臨死期にある患者と家族を理解し、患者、家族に必要な看護について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	終末期患者とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） がん、終末期の特徴と患者と家族の抱える苦悩について学習します。			講義・DVD
2	がん患者の生活とは	がん、終末期患者の困難と家族支援について学習します。			講義・演習
3	がんの治療とは	がん、終末期患者の治療と患者と家族への看護について学習します。			講義・演習
4	がん患者の社会参加とは	がん患者の社会参加への支援について学習します。			講義・演習
5	緩和ケアとは	緩和ケアを必要とする患者と家族への看護①について学習します。（事例：がん患者）			講義・演習
6	家族支援とは	緩和ケアを必要とする患者と家族への看護②について学習します。（事例：循環機能障害）			講義・演習
7	エンドオブライフとは	エンド・オブ・ライフケア①症状アセスメントとマネジメントについて学習します。（事例：呼吸機能障害）			講義・演習
8	呼吸機能障害の終末期の症状とは	エンド・オブ・ライフケア②症状アセスメントとマネジメントについて学習します。（事例：呼吸機能障害）			講義・演習
9	全人的苦痛とは	エンド・オブ・ライフケア③全人的苦痛のアセスメントとマネジメントについて学習します。（事例：呼吸機能障害）			講義・演習
10	予期的悲嘆とは	エンド・オブ・ライフケア④苦痛緩和と意思決定、予期的悲嘆への看護について学習します。（事例：呼吸機能障害）			講義・演習
11	アドバンス・ケア・プランニングとは	エンド・オブ・ライフケア⑤アドバンス・ケア・プランニング、家族ケアについて学習します。（事例：呼吸機能障害）			講義・演習
12	臨死期とは	臨死期の身体的ケアについて学習します。			講義・DVD
13	臨死期の看護とは	臨死期の精神的ケアについて学習します。			講義・演習
14	家族の悲嘆とは	臨死期の家族の悲嘆、代理意思決定支援について学習します。			講義・演習
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 呼吸器 成人看護学2（医学書院） 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 循環器 成人看護学3（医学書院） 系統看護学講座 別巻 がん看護学（医学書院）				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	成人看護技術論	単位数	1	開講時期	2年 後期
学習目標	成人期における患者指導および生命危機の状態にある成人の生体反応を観察する技術、および生命危機状態を脱し回復に向かうための援助技術の習得を目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス (科目目標、概要の説明、授業のすすめ方) ガイダンス (事例 1 : 呼吸器機能障害) 成人健康支援論Ⅱの事例に必要な対象の指導について学びます (事例 2 : 胃がんで手術を受ける患者)成人健康支援論Ⅰの事例に必要な看護技術について学習します。			講義
2	情報収集とは、セルフケア能力とは	事例1の患者理解について学習します。 情報収集、セルフケア能力の査定			講義・演習
3	指導計画とは	事例1の生活指導に関する指導計画立案について学習します。			講義・演習
4	指導案とは	事例1の指導計画に基づいた指導案立案について学習します。			講義・演習
5	指導の予行練習	学生間で指導案に基づく個別指導及び集団指導の実施について学習します。			講義・演習
6	指導の評価とは	指導の評価について学習します。			講義・演習
7	手術の影響とは	手術が日常生活に及ぼす影響について学習します。			講義
8	手術を受ける患者の看護	手術を受ける患者の看護について学習します。			講義
9	術前看護とは	事例2患者の術前看護について学習します。 ☆シミュレーターおよび学生間で実施 (術後合併症の予防処置と指導、不安のアセスメントと援助)			講義・実技
10	術中看護とは	事例2患者の術中看護について学習します。 (麻酔導入時の援助、手術体位とその影響、感染対策と事故防止 術中看護の実際)			講義・DVD
11	手術直後の観察とは	事例2患者の術後看護について学習します。 ☆シミュレーターおよび学生間で実施 (手術直後の観察法、創傷処置、チューブ・ドレーン・モニター類の管理)			講義・実技
12	疼痛緩和とは	事例2患者の術後看護について学習します。 ☆シミュレーターおよび学生間で実施 (疼痛緩和)			講義・実技
13	肺理学療法、ドレーン管理とは	事例2患者の術後看護について学習します。 ☆シミュレーターおよび学生間で実施 (肺理学療法、ドレーン管理)			講義・実技
14	看護の評価とは	看護の評価について学習します。			講義
15		まとめ、試験			講義
テキスト	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学各論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学1 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学1 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 クリティカル看護学 (医学書院)				
参考文献等	任 和子：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	高齢者看護実践の基礎	単位数	1	開講時期	1 年 前期
学習目標	老年期にある対象の身体的、精神的、社会的変化や特徴を知り、高齢者のライフステージとその健康課題の理解、対象の健康維持・増進のための老年看護の役割について理解することを目標とします。				
回数 (1 回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおい てください 老年期とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）ガイダンス 「若い」とは、高齢者の身体的・精神的・社会的特徴、老年期の定義について学習します。			講義 DVD
2	老年期の発達課題とは	ライフサイクルからみた老年期の特徴・発達課題について学習します。			講義・GW
3	高齢者の特徴について	高齢社会の統計学的視点からの特徴について学習します。			講義
4	統計学的特徴	高齢者の健康状態の視点からの特徴を学習します。			講義
5	健康指標	高齢者の生活の視点からの特徴について学習します。			講義
6	生活	高齢者の疑似体験（演習）をすることで老年期の特徴を学習します。①			演習（実習室）
7	疑似体験装具の目的	高齢者の疑似体験（演習）をすることで老年期の特徴を学習します。②			演習（実習室）
8	保健医療福祉に関連した制度	高齢者を取り巻く保健医療福祉の動向について学習します。			講義・DVD
9		高齢者を取り巻く保健医療福祉の社会システムについて学習します。			
10	高齢者の権利とは	高齢者の権利擁護について学習します。			講義
11	高齢者虐待とは	高齢者虐待について学習します。			講義・DVD
12	権利擁護の制度	高齢者の権利擁護とその制度について学習します。			講義・DVD
13	老年看護の役割と機能	老年看護の役割と機能について学習します。			GW 講義
14		老年看護の特徴について学習します。			講義
15		まとめ・試験			講義
テキスト等	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院） 国民衛生の動向（厚生統計協会）				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するには10回以上の出席が必要となります。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	高齢者健康 支援論Ⅰ	単位数	1	開講時期	1年 後期
学習目標	高齢者が健康的により良い生活を維持できるための生活機能を整えるための看護について学習すること を目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスを よく読んでおい てください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）ガイダンス			講義
	転倒リスクとは 廃用症候群とは	高齢者の日常生活を支える基本的活動について学習します。 転倒防止・廃用症候群の予防			GW
2	食事に関する障 害とは	高齢者に生じやすい食事に関する障害と食生活を整えるための援助に ついて学習します。			講義・GW
					講義・GW
3	排泄に関する障 害とは	高齢者に生じやすい排泄に関する障害と排せつ行動を整えるための援 助について学習します。			講義・GW
4	清潔に関する障 害とは	高齢者に生じやすい清潔に関する健康課題と清潔を整えるための援助 について学習します。			講義・GW
5	睡眠と覚醒につ いて	高齢者の生活リズムを整えるための援助について学習します。			講義/GW
6	高齢者に起こり やすいコミュニ ケーション障害 とは	高齢者の状況に応じたコミュニケーションの方法について学習しま す。			講義・GW
7	高齢者のセクシ ャリティとは	高齢者のセクシャリティについて学習します。			講義
8 (45分間)		試験			
テキスト等	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院）				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するには5回以上の出席が必要となります。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	高齢者健康 支援論Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	高齢者にみられる代表的な症状・疾病や機能障害に応じ高齢者の生命維持、健康維持のための看護および治療を要する高齢者への看護について理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスを よく読んでおい てください 老年症候群	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）ガイダンス 「老年症候群とは」について学習します。			講義
2		高齢者に特有の疾患の特徴について学習します。			講義・GW
3	加齢による症状 の要因	高齢者に起こりやすい症状の特徴とその看護について学習します。① (脱水・熱中症・褥瘡)			講義
4	症状の要因	高齢者に起こりやすい症状の特徴とその看護について学習します。② (睡眠障害・掻痒・せん妄・うつ病)			講義
5	症状の要因	高齢者に起こりやすい症状の特徴とその看護について学習します。③ (尿失禁・便秘・下痢)			講義
6	認知機能の評価	高齢者に起こりやすい疾病の特徴とその看護について学習します。① (認知症の理解)			講義・DVD
7	疾患の病態と要 因	高齢者に起こりやすい疾病の特徴とその看護について学習します。② (認知症の治療・看護)			講義・DVD
8		高齢者に起こりやすい疾病の特徴とその看護について学習します。③ (白内障・緑内障・加齢黄斑変性)			講義
9		高齢者に起こりやすい疾病の特徴とその看護について学習します。④ (骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折)			講義・DVD
10	高齢者の家族へ の影響	高齢者に起こりやすい疾病の特徴とその看護について学習します。⑤ (前立腺肥大症・感染症)			講義
11		治療・介護を必要とする高齢者とその家族の看護について学習します。			講義
12		様々な受療状況に応じた高齢者の看護について学習します。 (外来受診・リハビリ・検査)			講義
13	エンドオブライ フケアとは	様々な健康状態に応じた高齢者の看護について学習します。 (急性期・慢性期・回復期)			講義
14		高齢者の在宅医療とエンドオブライフケアについて学習します。			講義・DVD
15		まとめ・試験			
テキスト等	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するには10回以上の出席が必要となります。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	高齢者看護技術論	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	老年期にみられる加齢に伴う正常な変化や高齢者の日常生活動作能力について学び、その程度を判断して、高齢者の生命維持・健康な日常生活を維持するために必要な技術を身につけるとともに看護を理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）ガイダンス 高齢者の観察技術を身につけるために、加齢変化に伴う身体的変化の正常と異常の観察・アセスメントについて学習します。①			講義 DVD
2	2 回以降は次回学習内容に該当する部分の関連事項を調べて授業に臨んでください	高齢者の観察技術を身につけるために、加齢変化に伴う身体的変化の正常と異常の観察・アセスメントについて学習します。②			講義・GW
3		高齢者の観察技術を身につけるために、加齢変化に伴う身体的変化の正常と異常の観察・アセスメントについて学習します。③			講義・GW
4		高齢者の日常生活動作能力の程度を判断する観察技術について学習します。			講義
5		白内障・難聴とは 嚥下障害の原因	高齢で白内障・難聴・嚥下障害のある患者の食事介助についての実践の計画します。①		
6	高齢で白内障・難聴・嚥下障害のある患者の食事介助について実践学習を行います。②			実技	
7	高齢で白内障・難聴・嚥下障害のある患者・義歯装着している患者の口腔ケアについて実践の計画を行います。①			講義・GW	
8	高齢で白内障・難聴・嚥下障害のある患者・義歯装着している患者の口腔ケアについて実践学習を行います。②			実技	
9	筋力低下の評価について	実践後の評価を行います。			講義
10		高齢で筋力低下予防のための運動について実践の計画を行います。			講義・GW
11		高齢で筋力低下予防のための運動について実践学習を行います。			実技
12	尿失禁とは	尿失禁がありおむつを使用している難聴の患者の清潔援助について実践学習します。①			講義・GW
13		尿失禁がありおむつを使用している難聴の患者の清潔援助について実践学習します。②			実技
14		実践後の評価・老年看護における技術のまとめを行います。			講義
15		まとめ・試験			
テキスト等	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学（医学書院） 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論（医学書院）				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	子ども看護実践の基礎	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	子どもを統合的に認識し、あらゆる健康レベルにある子どもとその家族に応じた適切な看護を行うために、小児各期の発達課題を学び、子どもとその家族に必要な援助および小児看護の対象と、その特性、看護の目的と役割、小児看護学の特徴について学習します。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください 小児看護の対象とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）ガイダンス 小児看護の対象と目的、目標について学習します。			講義・DVD
2	我が国の人口構造 (2021年)とは	小児と家族の諸統計について学習します。			講義・演習
3	日本の児童観・育児観変遷について	小児看護の変遷について学習します。			講義
4	子どもの権利とは	小児看護における倫理について学習します。			講義・演習
5	小児看護の課題とは	小児看護の課題について学習します。			講義
6	発達課題とは	子どもの成長・発達について学習します。			講義・DVD
7	乳児の特徴とは	乳児の特徴と機能、養育および看護について学習します。			講義
8	幼児の特徴とは	幼児の特徴と機能、養育および看護について学習します。			講義
9	学童の特徴とは	学童の特徴と機能、養育および看護について学習します。			講義
10	思春期・青年期の特徴とは	思春期・青年期の特徴と機能、養育および看護について学習します。			講義
11	家族とは	子どもにとっての家族について学習します。			講義・演習
12	家族アセスメントとは	家族アセスメントについて学習します。			講義・演習
13	母子保健法とは	児童福祉、母子保健、医療費の支援について学習します。			講義
14	保健指導、予防接種とは	予防接種、学校保健について学習します。			講義・演習
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学1（医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	子ども健康支援論Ⅰ	単位数	1	開講時期	2年 前 期
学習目標	病気・障害を持つ子どもと家族の特徴とその看護を行うための基礎的能力を養い、子どもとその家族の成長・発達について考えられることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 子どもにとって家族とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 病気・障害をもつ子どもと家族の看護について学習します。			講義・DVD
2	入院と子どもとは	子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護について学習します。 （外来・入院・在宅・災害時）			講義
3	疾病の経過とは	子どもにおける疾病の経過と看護について学習します。① （慢性期・急性期）			講義
4		子どもにおける疾病の経過と看護について学習します。② （周手術期・終末期）			講義
5	子どもに特徴的な症状とは	症状を示す子どもの看護について学習します。			講義・演習
6	子どもにとっての検査・処置とは	検査・処置を受ける子どもの看護について学習します。			講義・演習
7	子どもの虐待とは	虐待と障害のある子どもと家族の看護について学習します。			講義・演習
8 (45分間)		試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論 （医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	子ども健康支援論Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年 後期
学習目標	特定の健康課題をもつ子どもと家族への疾病の回復、健康の保持・増進、成長・発達を促すために必要な援助ができる基礎的能力を養うための科目として学習します。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 先天異常とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 染色体・先天異常のある疾患をもった子どもの看護について学習します。			講義
2	新生児とは	疾患、障害のある新生児の看護について学習します。			講義
3	甲状腺の機能とは	甲状腺疾患をもつ子どもの看護について学習します。			講義
4	気管支喘息とは	気管支喘息の子どもの看護について学習します。			講義
5	麻疹とは	麻疹の子どもの看護について学習します。			講義・DVD
6	肺炎とは	肺炎の子どもの看護について学習します。			講義・DVD
7	ファロー四徴症とは	ファロー四徴症の子どもの看護について学習します。			講義・DVD
8	急性胃腸炎とは	急性胃腸炎の子どもの看護について学習します。			講義
9	血友病とは	血友病をもつ子どもの看護について学習します。			講義
10	白血病とは	白血病の子どもの看護について学習します。			講義
11	ネフローゼ症候群とは	ネフローゼ症候群をもつ子どもの看護について学習します。			講義
12	脳性麻痺とは	脳性麻痺の子どもの看護について学習します。			講義・DVD
13	1型糖尿病とは 事例について	1型糖尿病をもつ子どもの看護（事例による）について学習します。			講義・GW
14		1型糖尿病をもつ子どもの看護の展開（事例による）について学習します。			講義・GW
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 小児看護学2 （医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	子ども看護技術論	単位数	1	開講時期	2年 後期
学習目標	成長・発達の途上にある子どもの特性を理解し、健康障害をもつ子どもと家族への健康回復に関するアセスメントと必要な看護、子どもの特徴を踏まえ症状、検査、治療、処置に応じた適切な援助技術の方法について学習し看護実践に活かせることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）ガイダンス 年齢に応じたコミュニケーションについて学習します。			講義
2	プレパレーションとは	年齢に応じた説明と同意（プレパレーション）			講義・DVD
3	バイタルの測定方法とは	バイタルの測定時の看護技術について学習します。 （事例：シミュレーション）			講義・演習
4	身体計測の方法とは	身体計測時の看護技術について学習します。 （事例：シミュレーション）			講義・演習
5	呼吸困難時の看護とは	身体的アセスメント（事例：シミュレーション）			講義・演習
6	観察法とは	呼吸困難時の症状緩和に向けた看護技術①について学習します。 （事例 幼児：シミュレーション）・全身状態の観察			講義・演習
7	事例のアセスメント（臨床判断）	呼吸困難時の症状緩和に向けた看護技術②について学習します。 （事例 幼児：シミュレーション）・アセスメント			講義・演習
8	安楽な対位の方法とは	呼吸困難時の症状緩和に向けた看護技術③について学習します。 （事例 幼児：シミュレーション）・安楽な体位・心身の安静			講義・演習
9	輸液療法とは	呼吸困難時の治療・処置時の看護技術④について学習します。 （事例 幼児：シミュレーション）・酸素療法・輸液療法			講義・演習
10	採血法とは	呼吸困難時の治療・処置時の看護技術⑤について学習します。 （事例 幼児：シミュレーション）・採血・注射・採尿			講義・演習
11	看護の評価とは	呼吸困難な小児の看護評価（事例 幼児）について学習します。			講義・演習
12	外来診察時の看護とは	外来診察時の看護技術について学習します。			講義・演習
13	小児の事故・外傷の種類	事故・外傷と看護①について学習します。 ・頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、熱傷、熱中症			講義・演習
14	身体計測	事故・外傷と看護②について学習します。 ・心肺蘇生法、吸引、熱傷、熱中症			講義・演習
15	心肺蘇生法とは	まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 小児看護学2 (医学書院)				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	母性看護実践の基礎	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	母性看護の対象とその特性、母性看護の目的と役割を理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 母性看護の基盤となる概念について学習します。			講義
2	リプロダクティブヘルス/ライツとは	母性看護のあり方、倫理、安全について学習します。			講義・演習
3	生命倫理とは	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について学習します。			講義・演習
4	母子保健とは	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について学習します。			講義・演習
5	女性のライフサイクルとは	女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化について学習します。			講義・演習
6	母性の発達とは	女性のライフサイクルと家族、母性の発達・成熟・継承について学習します。			講義・演習
7	思春期の特徴	ライフサイクルにおける女性の健康と看護、思春期の健康と看護について学習します。			講義・演習
8	性成熟期・更年期・老年期とは	性成熟期・更年期・老年期の健康と看護について学習します。			講義・演習
9	性感染症の現状とは	リプロダクティブヘルスケア①について学習します。			講義・演習
10	性暴力の現状とは	リプロダクティブヘルスケア②について学習します。			講義・演習
11	児童虐待の現状とは	児童虐待と看護、国際化社会と看護について学習します。			講義・DVD
12	事例について理解する	母性看護における看護過程（事例：妊娠期）について学習します。			演習
13	情報のアセスメント	情報収集・アセスメント（事例：妊娠期）について学習します。			演習
14	必要な看護技術	母性看護に使われる看護技術（事例：妊娠期）について学習します。			演習
15	看護計画立案	看護計画、評価（事例：妊娠期）について学習します。			演習
		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学1 （医学書院）				
参考文献	国民衛生の動向 財団法人 厚生統計出版協会				
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	母性健康支援論Ⅰ	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	妊娠期・分娩期にある対象（妊婦と新生児）の特性および必要な看護を理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）			講義・DVD
	妊娠、分娩とは	子どもを産み育てることと看護について学習します。			
2	不妊治療とは	出生前からのリプロダクティブヘルスケアについて学習します。			講義
3	妊娠期とは	妊娠期の身体的・心理・社会的特性について学習します。			講義・演習
4	事例の理解	妊婦と胎児のアセスメント（事例）について学習します。			講義・演習
5	準備教育とは	妊婦と家族の看護について学習します。			講義・演習
6	分娩の要素とは	分娩の要素・経過について学習します。			講義・演習
7	アセスメントの視点とは	産婦・胎児・家族のアセスメント、産婦と家族の看護について学習します。			講義・演習
8	分娩期とは	分娩期の看護の実際について学習します。			講義・DVD
9	新生児の特徴とは	新生児の生理について学習します。			講義・DVD
10	新生児の診断とは	新生児のアセスメントについて学習します。			講義・演習
11	新生児の看護とは	新生児の看護について学習します。			講義・DVD
12	事例の理解	事例展開：分娩期の看護（情報収集、アセスメント）について学習します。			演習
13	事例の看護目標、看護計画	事例展開：分娩期の看護（看護目標、看護計画）について学習します。			演習
14	事例の実施、評価	事例展開：分娩期の看護（実施、評価）について学習します。			演習
15		まとめ、試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 母性看護学2 電子版 医学書院				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するには、10回以上の出席が必要となります。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	母性健康支援論Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年 後期
学習目標	産褥期および異常妊娠、分娩等の対象（褥婦と新生児）の特性および必要な看護を理解することを目 標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく 読んでおく 産褥とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） について学習します。 産褥の経過について学習します。			講義・DVD
2	褥婦とは	褥婦のアセスメントについて学習します。			講義・演習
3	進行性変化とは	褥婦と家族の看護について学習します。			講義・演習
4	育児不安とは	施設退院後の看護について学習します。			講義・演習
5	ハイリスク妊娠と は	妊娠の異常（ハイリスクと妊娠）と看護について学習します。			講義・DVD
6	妊娠期の感染症と は	妊娠の異常（妊娠期の感染症）と看護について学習します。			講義・DVD
7	産道、娩出力とは	分娩の異常（産道と娩出力）と看護について学習します。			講義・DVD
8	分娩3期とは	分娩の異常（分娩3期の異常）と看護について学習します。			講義・DVD
9	新生児仮死とは	新生児の異常と看護について学習します。			講義
10	子宮復古不全とは	産褥の異常と看護について学習します。			講義
11	産後うつとは	メンタルヘルスの問題を抱える母親の支援について学習します。			講義・演習
12	事例の理解	事例展開：褥婦の看護（情報収集、アセスメント）について学習し ます。			演習
13	事例の看護目標、 看護計画	事例展開：褥婦の看護（看護目標、看護計画）について学習します。			演習
14	事例の実施、評価	事例展開：褥婦の看護（実施、評価）について学習します。			演習
15		まとめ、試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学2 電子版 医学書院				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するには、10回以上の出席が必要となります。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	母性看護技術論	単位数	1	開講時期	2年 後期
学習目標	妊婦、褥婦、新生児を看護するうえで必要な看護技術を身に付けることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく レオポルド4段法とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） レオポルド4段法について学習します。			講義・実技
2	分限監視装置とは	分限監視装置について学習します。			講義・演習
3	子宮底、腹囲測定とは	妊婦の子宮底、腹囲測定について学習します。			講義・実技
4	子宮底・外陰部・肛門の観察とは	褥婦の子宮底位置確認について学習します。			講義・実技
5	全身観察の方法・ 股関節の診断の動画視聴	新生児のフィジカルアセスメントについて学習します。			講義・実技
6	新生児の身体計測技術の動画視聴	新生児の身体計測（身長、体重、頭囲、胸囲）について学習します。			講義・実技
7	新生児の更衣の動画視聴	沐浴、おむつ交換について学習します。			講義・実技
8（45）		試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野Ⅱ 医学書院				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するには、5回以上の出席が必要となります。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	精神看護実践の基礎	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	看護における精神看護の対象・目的を理解し、対象者の社会的背景および成長発達過程・社会的状況のなかで生じる精神の危機的状況とその看護を学び、精神看護を実践するために必要な基礎的能力を養うためことを目標とします。				
回数 (1回 90 分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 精神看護学とは何かについて学習します。			講義
2	精神障害とは	精神障害をもつ人の病の体験と精神看護について学習します。			講義・DVD
3	メンタルヘルスとは 精神の健康とは	こころのケア、精神看護の課題について学習します。			講義・DVD
4	PDSO とは	精神の健康、ストレスの影響について学習します。			講義・DVD
5	意識、認知機能とは	心的外傷と回復、精神障害という捉え方について学習します。			講義・DVD
6	人格、気質とは	こころのはたらきについて学習します。			講義
7	システムとは	こころのしくみと人格の発達について学習します。			講義・演習
8	集団とは	システムとしての人間関係、全体としての家族について学習します。			講義・DVD
9	環境療法・社会療法とは	人間と集団について学習します。			講義・演習
10	第二次世界大戦以前の精神医療とは	精神障害と治療の歴史について学習します。			講義・DVD
11	精神衛生法とは	精神医学・精神医療の流れについて学習します。			講義・演習
12	精神保健法とは	精神障害と文化、精神障害と社会学について学習します。			講義・演習
13	精神保健福祉法とは	精神看護における法律と制度について学習します。			講義・演習
14		精神保健医療福祉対策とその動向について学習します。			講義
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学1 （医学書院） 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 （医学書院）				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	精神健康支援論Ⅰ	単位数	1	開講時期	2年 前期
学習目標	精神障がいや精神疾患をかかえた人とその家族を理解し、回復の促進や地域におけるケアと看護を提供するための基礎的能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 回復とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 回復の意味について学習します。			講義 講義・DVD
2	リカバリーとは	リカバリーについて学習します。			講義・DVD
3	グループプログラムとは	リカバリーを促す方法について学習します。			講義・DVD
4	リカバリーのプロセスとは	リカバリーのプロセスについて学習します。			講義・DVD
5	地域で暮らす精神障害者とは	「器」としての地域について学習します。			講義
6	障害者総合支援法とは	地域における生活支援の方法について学習します。			講義・演習
7	アウトリーチチームとは	地域におけるケアの方法と実際について学習します。			講義・演習
8	学校におけるこころの健康課題とは	学校におけるメンタルヘルスと看護について学習します。			講義・演習
9	学校におけるこころの健康課題とは	職場におけるメンタルヘルスと精神看護について学習します。			講義・演習
10	精神科入院の種類とは	精神科を受診することについて学習します。			講義・DVD
11	入院のメリットとデメリットとは	治療の器としての病院・病棟について学習します。			講義・DVD
12	観察の目的とは	入院中の観察とアセスメントについて学習します。			講義・演習
13	生活状況のアセスメントとは	ケアの方向性を考えるについて学習します。			講義・演習
14	入院患者の退院先とは	退院に向けての支援とその実際について学習します。			講義・演習
15		まとめ・試験			講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学2 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学1 (医学書院)				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	精神健康支援論Ⅱ	単位数	1	開講時期	2年 後期
学習目標	精神障がいや精神疾患をかかえた人とその家族を理解し、身体ケア、安全および患者と看護者のメンタルヘルスケアに必要な基礎的能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 退行とは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 精神科における身体のケアについて学習します。 経過別の身体的ケアについて学習します。 日常生活における身体のケアについて学習します。 睡眠とそのケアについて学習します。 精神科の治療に伴う身体のケアについて学習します。 身体合併症のアセスメントと終末期ケアについて学習します。 リスクマネジメントの考え方と方法について学習します。 緊急事態への対処とスタッフの支援について学習します。 身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス、リエゾン精神看護とその活動について学習します。 災害時におけるこころのケアについて学習します。 災害にみまわれた人の心理とケアについて学習します。 支援者のメンタルヘルスとケアについて学習します。 看護における感情労働について学習します。 看護師のメンタルヘルスについて学習します。 まとめ・試験			講義・DVD
2	急性精神病状態とは				講義・DVD
3	ケアの精神療法的意味とは				講義・DVD
4	入眠困難とは				講義・DVD
5	治療の有害反応とは				講義・演習
6	精神疾患患者に起こりやすい合併症とは				講義・演習
7	行動制限とは				講義・演習
8	緊急事態とは				講義・演習
9	リエゾン精神看護とは				講義・演習
10	災害弱者とは				講義・DVD
11	急性ストレス反応とは				講義・DVD
12	緊急事態ストレスマネジメントとは				講義・DVD
13	感情労働とは				講義・演習
14	共感疲労とは				講義・演習
15					講義
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学2 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学1 (医学書院)				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	精神看護技術論	単位数	1	開講時期	2年 後期
学習目標	精神症状により日常生活が困難な対象に対して、患者と看護者との治療的関係の意味や役割を知り、看護者として適切な援助ができるための基礎的能力を養うことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 精神看護におけるケアとは	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） ケアの前提、原則について学習します。			講義 DVD
2	ケアの方法とは	ケアの方法について学習します。			講義・演習
3	ケアの実際とは	ケアの実際について学習します。（学生間で実施）			実技
4	プロセスレコードとは	プロセスレコードについて学習します。			講義・演習
5	プロセスレコードの書き方	プロセスレコードの実際について学習します。（学生間で実施）			実技
6	関係性のアセスメントとは 対自化とは	関係性のアセスメント、違和感の対自化について学習します。			講義・演習
7	感情労働とは	患者と看護師関係における感情体験、困難事例について学習します。			講義・演習
8 (45分間)		試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学2 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学1 (医学書院)				
参考文献					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	チームケア論Ⅰ	単位数	1	開講時期	2年 前 期
学習目標	対象者の療養の場の拡大に伴い、多様な場における多職種と連携して看護を提供する必要があります。地域で生活する人々やその家族の持つ健康課題を理解し、多職種連携の必要性について理解できることを目標とします。				
回数 (1回 90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 保健・医療・福祉チームの各職種、多職種協働の意義と目的と看護の役割について学習します			講義
2	2 回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分を学習し授業に臨んでください	＊他校との協同学習を行います 理学療法士との協同学習による専門職連携学習 事例をそれぞれの職種の視点で支援内容を考える			講義 GW
3		事例 ①脳血管障害の回復期の患者			GW
4	脳血管障害の看護 大腿骨頸部骨折の看護	事例 ②大腿骨頸部骨折の回復期の患者			
5		協同学習の成果のまとめをおこないます			
6		協同学習の成果をプレゼンテーションし、学びの共有を図ります。			プレゼン テー ショ ン
7		協同学習からの学びのまとめを行います。			
8 (45分)		まとめのレポート			
テキスト	講師資料				
参考図書等	系統看護学講座 成人看護学 脳・神経 (医学書院) 系統看護学講座 成人看護学 運動器 (医学書院) 系統看護学講座 在宅看護論 (医学書院)				
評価方法	課題レポート、授業への取り組み、プレゼンテーション内容、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 総合的評価を受けるには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	チームケア論Ⅱ	単位数	1	開講時期	3年 前 期
学習目標	病院の組織について理解するとともに今日の医療・看護の仕組みを理解し、医療チームの一員として看護サービスが実践できるための能力を身につけることを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 病院の概念と組織、看護管理・看護部の組織について学習します。			講義・DVD
2	2回以降は次回学習内容に該当する部分を学習し授業に臨んでください	看護マネジメントについて学習します。			講義
3		チーム医療の中で看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップについて学習します。			講義
4		看護業務の実践について学習します。			講義
5	看護単位・看護体制とは	看護サービスの提供の仕組みについて学習します。 看護単位・看護体制・人材育成等			講義
6	諸制度について	看護サービスを行うための施設管理・物品管理・情報管理のマネジメントについて学習します。			講義
7		看護を取り巻く諸制度について学習します。			
8 (45分)		試験			
テキスト	系統看護学講座 看護管理 （医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、課題レポート、小テスト、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	リスクマネジメント	単位数	1	開講時期	2年 前 期
学習目標	看護における事故やリスクの感性を高める医療安全の考え方や医療安全システムを理解し、医療安全における看護者の責務がわかり医療安全に伴う行動について考え、身につくことを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 医療・看護における安全の重要性、医療安全システムについて学習します。			講義
2	2 回以降はテキストの次回学習内容に該当する部分を学習し授業に臨んでください 注射の種類・方法 輸血について 経管栄養について チューブ管理について 転倒リスクスコア KYT、SHEL モデルとは	リスクマネジメントについて学習します。			講義・DVD
3		医療事故・看護事故について学習します。			講義
4		患者に投与する業務における事故と事故防止について学習します。①注射業務			講義
5		患者に投与する業務における事故と事故防止について学習します。②輸血・内服業務			講義
6					
7		患者に投与する業務における事故と事故防止について学習します。③経管栄養業務			講義・DVD
8		危険な持続的医療行為の観察・管理における事故と事故防止について学習します。①（チューブ管理）			講義・DVD
9					
10					
11		療養上の世話における事故と事故防止について学習します。① 転倒・転落事故防止			講義・実技
12		療養上の世話における事故と事故防止について学習します。② 誤嚥事故防止			講義・実技
13		業務領域をこえて共通する間違いと発生要因、要因分析手法について学習します。（KYT、p-mSHELL モデル等）			講義
14		事件事例の要因分析（転倒転落）p-mSHELL モデルを使用して、事故の要因分析を行います。 （看護学生に起こりやすいヒヤリハット事例検討）			講義・GW
15		まとめ・試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 （医学書院）				
参考図書等	川村 治子 医療安全ワークブック （医学書院） 小林亜実 医療安全 （学研）				
評価方法	筆記試験、小テスト、課題レポート、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	災害・国際看護学	単位数	1	開講時期	3年 前 期
学習目標	近年、風水害や地震などの自然災害の頻度や規模が拡大し被害も増大している状況の中、被災傷病者の医療・看護への期待は大きくなっています。災害看護を実践できる基礎的能力を身につけるとともに国際看護における課題と具体的な活動内容について理解し、グローバルな視点で看護を理解することを目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおいてください	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方） 災害看護と国際看護を学ぶ意義について学習します。			講義
2		災害医療における看護の役割について学習します。			講義・DVD
3		災害看護に関する基礎的知識について学習します。			講義
4		災害看護の特徴と看護活動について学習します。			講義・DVD
5	近年の自然災害における被害状況と健康問題について調べる	地震災害看護について学習します。			講義・DVD
6		国際看護学についての基礎的知識を学習します。			GW 講義・DVD
7		諸外国における保健・医療・福祉の課題と国際看護活動の実際について学習します。			講義
8 (45分)		試験			
テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学（医学書院）				
参考図書等					
評価方法	筆記試験、小テスト、課題レポート、授業への取り組み、出席状況を含めて総合的に評価します。総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには5回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				

授業科目	臨床看護判断	単位数	1	開講時期	3年 前期
学習目標	既習学習を統合し、より臨床に近い状況設定・流動的時間経過の中における複数の患者の状態の理解と状態に応じた看護について、既習学習を統合し考え、実践力と臨床判断能力の向上を目標とします。				
回数 (1回90分)	予習	学習内容			授業方法
1	授業シラバスをよく読んでおく 臨床看護判断能力とは 2回目以降 提示された疾患の病態生理・症状・治療・検査・看護について 7回目以降 事例に基づいて必要とされる看護ケア・看護技術の方法について	ガイダンス（科目目標、概要の説明、授業のすすめ方）			講義
2		臨床看護判断能力と看護実践能力の要素について学習します。			講義
3		複数（2人）患者を受け持った際の看護について学習します。 2人の患者の状態アセスメントを学習します。①			講義・GW
4		2つの事例提示（例： 1）CI 後 2）LC）			講義・GW
5		2人の患者の状態アセスメントを学習します。②			講義・GW
6		2人の患者のケア計画立案について学習します。②			講義・GW
7		2人の患者のケア計画立案について学習します。③			講義・GW
8		複数患者受け持ち時に起こりうる状況および判断について学習します。（予期しない患者の反応・突発的な事態・時間の切迫 等）			講義・GW
9		複数患者受け持ち時に起こりうる状況への対応について学習します。			講義・GW
10		2人の患者への看護ケア・看護技術について学習します。①			GW
11		2人の患者への看護ケア・看護技術について学習します。②			GW
12		2人の患者の看護についてまとめを行います。①			GW
13		2人の患者の看護についてまとめを行います。②			GW・演習
14		2人の患者の看護について技術演習を行います。①			GW・演習
15		2人の患者の看護について技術演習を行います。②			GW・演習
	2人の患者の看護について技術演習を行います。③			GW	
	事例に基づき OSCE による評価・まとめ				
テキスト	系統別看護学講座（医学書院）				
参考図書等					
評価方法	課題レポート、授業への取り組み、出席状況、OSCE 結果を含めて総合的に評価します。 総合的評価は講師に一任します。 本試験を受験するためには10回以上の出席が必要です。				
備考	①授業は予習をした上で受講することが望ましいが、少なくとも復習は必ず行いましょう。 ②復習の程度を確認するために、授業の開始前に5分程度の小テストを実施することがあります。 ③予習は当該授業を受けるために最低必要な学習であり、授業の中で追加することがあります。				